

日本河川・流域再生ネットワーク <http://www.a-rr.net/jp/>  <https://www.facebook.com/JapanRRN>

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。（Since 2006）

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ JRRN 会員寄稿記事	4
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ	7

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

JRRN 国際活動－台湾・台中市政府水利局等との都市河川再生交流の報告（速報）

JRRN では 2008 年より計 7 回、台湾の中央政府及び地方自治体や大学、NGO 等の来日視察団を受入れ、都市河川再生に関わる技術交流や日本国内行政機関との交流支援を担っています。また昨年 8 月には、台中市政府水利局の来日視察団を受け入れ、ARRN 運営会議への参加及び東京都第二建設事務所との技術交流を支援しました。

※2018 年 8 月の台中市政府水利局視察支援の様子

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/555>

この交流をきっかけとして、2019 年 12 月 3 日(火)～5 日(木)の三日間、台中市で開催された都市河川再生ワークショップに参加し日本の都市河川再生の経験や事例、市民連携や川づくりの啓発の取組みを講演するとともに、台湾中央政府水利署、台中市政府水利局、逢甲大学水利発展センター、地元の NGO 団体やコンサルタント企業と河川再生の現場を巡りながら、川づくりに関わる国際交流を行ってまいりました。

台中市では、都市部河川の賑わいや自然環境の再生を目的とした事業が続々と始まっていますが、その技術や地域住民との合意形成について試行錯誤しながら様々な挑戦を続けており、事業を担う台中市政府水利局担当者や NGO の方々から様々な苦労話を伺うことができました。



埋め立て予定の排水路・黎明溝の再生現場



親水整備を行った柳川での現場説明



都市河川再生ワークショップの様子（JRRN 土屋代表）

なお、今回の技術交流や訪問した河川については、JRRN ニュースレター 1 月号で詳しく紹介させていただきます。

(JRRN 事務局・和田彰)

JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

JRRN 国際活動 – オーストラリア・ブリスベンのうらやましすぎる水辺事情

今号では、先月ご報告した ARRN 国際フォーラム及び運営会議が開催されたオーストラリア・ブリスベンの水辺事情について紹介します。ブリスベンはオーストラリア連邦クイーンズランド州南東部に位置する州都で、シドニー、メルボルンに次ぐオーストラリア第三の都市です。市の中心部にはブリスベン川が流れ、川沿いに高層商業ビルや文化・公共施設を見ることができます。



ブリスベン中心市街地マップ

① 川沿いの遊歩道を歩く

川沿いの遊歩道は人がたずんだり散歩をしたり、豊かな時間が流れます。水辺に限らず、市のいたるところにサイクルステーションがあり、自転車利用者



通行看板

を多く見ました。市がシェアサイクルを運営し、30 分まで無料、月額で 5A\$（執筆時 1A\$ = 約 74 円）と、かなり安価に利用できます。市街地は自転車専用レーンもありますが、水辺の遊歩道では自転車と歩行者が共存となっていました。日本だとそれぞれをレーンで分けている例が多いですが、ブリスベンでは通行方向のみで分け空間的には区別しておらず、その代わり、歩行者優先である旨が通行看板で示されていました。ちなみに、自転車利用者は全て着用義務があるヘルメットをかぶっており、日本と違う雰囲気を感じました。

しかしそんなブリスベンの水辺で、自転車以上に目立っていたのが電動キックボードです。地元の住民、観光客双方の利用者の姿が本当によく見られました。コーポレートカラーが緑色の LIME 社（本社アメリカ）とオレンジ色の NEUTRON 社（本社シンガポール）

の 2 社のサービスが、それぞれ昨年から今年にかけて導入されました。専用アプリを用いて利用するため、スマートフォンが必須です。料金



ブリスベン川左岸（中央の人はヘルメット着用が必要ですね）

は、例えば NEUTRON 社の場合はカギのロック解除に 1A\$、1 分あたり 0.38A\$（執筆時点）かかり、10 分で約 5A\$ と決して安くはないですが、水辺を颯爽と走る姿はスマートで、見れば「乗りたい」と思う気持ちが募ることは間違いありません。現在、アメリカやヨーロッパで大流行している電動キックボード、日本の都市で社会実験中のところもありますが、水辺こそ、その真価を発揮するのではないかと感じました。



ブリスベン川右岸の様子

② 水上フェリーで川を下る

ブリスベン川では、シティホッパーとシティキャットという 2 種類のフェリーが運航しています。どちらもブリスベン市が運営していますが、そのうちシティホッパーは運賃無料です。およそ 30 分に 1 本の割合で



シティホッパー(上)とシティキャット(下)

（市街地の範囲のみですが）船で移動できるのです。乗船客は観光客が多い印象ですが、買い物袋をぶら下げた地元住民の姿もみられます。また、夜も 11 時台まで便があり、スキのなさを感じます。シティキャットの方は 15 分ほどの間隔で、運行距離も長く、電車・バスと共通の交通系 IC カード「ゴーカード」をピッとやれば手間なく乗船することが可能です。シティキャットの方は双胴船で恐ろしく静かで、夜間散歩していた時



夜の水上フェリー

には近づいているのがわからないほどでした。

水上からの眺めは素晴らしく、近代的なオフィスや歴史的建造物などをみることができ、水上フェリーはブリスベンの各種観光案内媒体でも真っ先に紹介されています。写真は、川沿いの崖地で体験できるロッククライミングの様子で、船からその光景をみることができます。



観光名所カンガルーポイントでのロッククライミング

③ 川沿いの公園にビーチ

ブリスベン川の右岸沿いに位置する South Bank Parklands。元々は 1988 年の万博会場となった場所で、その跡地に公園などが整備されています。有名な写真スポットである「BRISBANE」の文字もこのエリアにあり、他にも、博物館や映画館、コンサートホール、観覧車と、文化・娯楽施設が揃っています。ここで、紹介したいのは公園内にあるプール、しかも天然の砂を用いた人工ビーチのプールです。なんと、このプールも無料です。無料ということ自体も素晴らしいですが、無料であるが故に周りと区別する柵・フェンスがなく、自由に立ち入ることができ、また周囲の公園と連続した開放的な景観が形成されています。利用面・景観面において特筆すべき点と言えます。周辺にはカフェやレストランや土産物屋もあり、ビーチには多くのファミリー、カップルが訪れていました。ここでは監視員が朝 7 時から夜 9 時まで常駐していますが、それ以外の時間帯も基本的には出入り自由となります。監視員がいない時間は、もちろん、自己責任です。ちなみに、我々が夕食後、夜の 10 時頃に散歩した時にも、数人の利用者が見られました。



利用者でにぎわう人工ビーチ

④ 水辺の最新商業施設

最後にブリスベンの新しいスポットとして昨年 12 月に川沿いにオープンしたばかりの商業施設 Howard Smith Wharves（ハワード・スミス・ワーブズ）を紹介しましょう。場所は前述のサウス・バンクやカンガルーポイントの下流の橋梁「Story Bridge」のたもとです。元は 1930 年代に州政府のプロジェクトとして開発された埠頭で、1960 年代に港が下流に移動するのに伴い放棄状態だったところが再開発されました。水辺に地ビール醸造所やカフェ・レストラン、公園などが配され、地形を利用して崖地沿いにホテルが整備されています。船からも建物の屋根に「BREWING」の大きな文字が確認でき、興味をそそられます。夕方は水辺で飲んだり、公園で子供とあそんだりする姿が多く見られました。なお、Story Bridge はブリッジ・クライミングを楽しむことができる橋として有名です。



川沿いのバーレストランでくつろぐ人々



Story Bridge からみた下流の眺め（左下が Howard Smith Wharves の一画）

今回ブリスベン川沿いを訪問し、観光スポットであり、交通基盤であり、レジャー空間であり、商業区域であり、人々の憩いの空間であり、と、改めて水辺の多様さ・豊かさを実感しました。また、近年様々な公共空間において民間活力の導入が進められている日本を鑑み、公共サービスのありようについても考えさせられる訪問となりました。（JRRN 事務局・阿部充）

12 月



あの日のあの川 リレー日記 ～第 47 話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどの川でどんなことをした記憶がありますか？ 幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第 47 話主人公 丸山陽久 (筑波大学 白川（直）研究室『川と人』ゼミ)

(□川ガール・■川系男子)
(出身地を流れる川：愛知県乙川)

「青春」

いつのこと？： 幼少時代から高校時代まで

どの川？： 乙川

大学進学のために地元・愛知県を離れて早 3 年半。入学当初に感じていたホームシックを感じることは滅多に無いが、たまには地元が恋しくなるときもある。そんなとき、地元の景色として真っ先に思い浮かぶのは桜で埋め尽くされた乙川の景色だ。

愛知県中部に位置する岡崎市。その市の中心部を流れるのが乙川だ。徳川家康生誕の地として名高い岡崎城の麓を流れるこの川と共に、私は成長してきた。

幼少時代、私にとって乙川は特別な場所であった。自宅から車で 20 分ほど掛かるその川はお祭り等の時に

しか行く機会がなかった。人々で溢れ、華やかなその場所は私を少し背伸びした気分にさせてくれた。毎春には河川敷が桜で埋め尽くされ、家族 5 人で連れ立って満開の河川敷を散歩した。兄貴達と河川敷の縁でふざけあって両親に怒られた。屋台で好きなものを買ってもらえずに泣き喚いた。こんな桜祭りも時が経つにつれて兄達は友人と行くようになり、家族揃って出掛けることもなくなった。両親と 3 人の桜まつりは少し寂しくもあったが、これが成長するということかと子供ながらに感じたのを覚えている。

小学生も高学年になると乙川は私にとって少し身近な場所となった。自転車を手に入れ、行動範囲の広がった私は週末になると意味もなく友達と乙川まで出かけた。河川敷で遊ぶこともあれば意味もなく川沿いを遡って源流探しに出掛けたこともある。特に、中学 1 年生の夏は私にとって忘れられないものとなっている。今までは家族と行っていた花火大会に友達だけで行ったのだ。心配そうに見送った母親が少し多めにくれたお小遣いを手に、河川敷でもみくちゃんになりながら友達とみた花火と屋台の匂いは今でも鮮明に覚えている。また、陸上競技に取り組んでいた私にとって乙川は「走り初め」の地でもあった。毎年 1 月 3 日に行われていたマラソン大会では「今年こそはいい走りを！」の思いとともに走った。

高校生になると乙川の近隣の高校に進学した私にとって、乙川は日常になった。自転車の上から毎日見る乙川の景色は私に季節の移ろいを教えてくれた。季節によって川面の表情が異なるのだということを私はこの時初めて知った。また、川が恐ろしいものであるということも乙川から学んだ。平成 25 年台風第 18 号で乙川は大幅に増水し、河川敷までもが濁流に飲み込まれた。水が引いた後に瓦礫まみれになった河川敷の景色には大変なショックを受けた。補講から抜け出して友達と河川敷でおにぎりを食べ、くだらないことを言い合いながら友達と河川敷を自転車で駆けながら帰宅した。受験期には近くの図書館から息抜きに乙川を訪れ、川の流れを見つめた。このように私にとって乙川は当たり前の存在となった。

そんな乙川も大学進学以降ほとんど訪れていない。現在乙川周辺では再開発事業が進行しており、ここ数年で大きく様変わりしたそうだ。今でも帰省する際の電車の車窓から乙川が見える。変わっていく川の周囲と変わらない川の流れを見るたびに、地元を出て自分も少しぐらいは成長したろうかと自問自答する。そして、成長を手伝ってくれた故郷と家族に対する感謝の念を抱くに至る。寒い冬があげると乙川の河川敷が例年通り桜で埋め尽くされるだろう。今度帰省した際には感謝の気持ちを込めて両親に言ってみよう。「乙川に桜見に行こうよ」と。

(次は 2 月号にて藤田直樹さんにバトンを託します)

■ 連載『あの日のあの川 リレー日記』のバックナンバーは JRRN ホームページの以下のページよりご覧いただけます！
<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/category/riverdiary>

水辺からのメッセージ No.127

岡村幸二 (JRRN 会員)

坂の街「尾道」:

空き家の再生で成功するまち 観光地尾道の魅力をさらに高める



撮影：2019年11月（広島県尾道市）

◆千光寺山ロープウェイからの展望

ロープウェイの頂上は標高 144.2mの千光寺山にひろがる公園になっており、尾道市内、尾道水道、対岸の向島を一望に見渡すことができます。山腹には千光寺をはじめ数多くの社寺が連なっています。

◆「坂」「文学」「映画」のまち

志賀直哉や林芙美子などの文人たちにも愛された街は、「文学の街」と呼ばれ、ノスタルジックで親しみやすい風景が印象的です。2015年には、「尾道水道が紡いだ中世からの箱庭的都市」として最初の日本遺産の一つにも認定されました。また広くは、しまなみ海道の起点としても注目されています。

■ 連載『水辺からのメッセージ』のバックナンバーは JRRN ホームページ内の以下のページよりご覧いただけます！

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/category/mizube>

JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ (2019年11月末まで提供分) Information from member

【JRRN 会員からの提供情報】

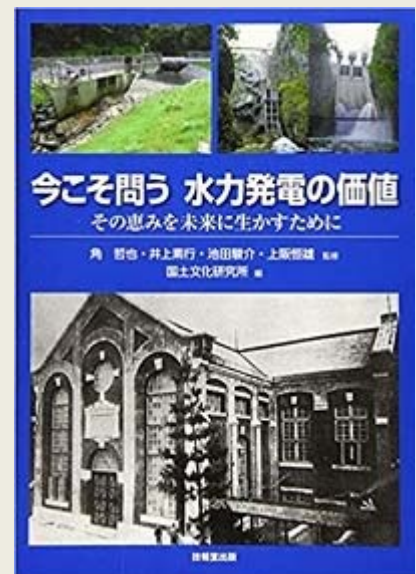
■「今こそ問う水力発電の価値—その恵みを未来に生かすために」新刊書籍案内

水力発電の再評価に向けた課題と解決策を示した「今こそ問う水力発電の価値—その恵みを未来に生かすために」発刊案内を、監修者の上阪恒雄様 (JRRN 個人会員) よりご紹介頂きました。

- 書名： 今こそ問う水力発電の価値—その恵みを未来に生かすために
- 監修： 角 哲也 井上 素行 池田 駿介 上阪 恒雄
- 編集： 国土文化研究所
- 発刊日： 2019年11月5日
- ISBN： 978-4765518666
- 定価： ￥2,200+税
- 出版社： 技報堂出版

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3570.html>



【JRRN 会員からの提供情報】

■「土木学会デザイン賞 2019」選考結果発表・授賞式開催案内 (1/25 開催)

土木学会デザイン賞 2019 (主催：土木学会 景観・デザイン委員会) 運営事務局より、本年の「土木学会デザイン賞 2019」の最優秀賞、優秀賞、奨励賞の計 10 作品決定、及び 1/25 (土) に開催される土木学会デザイン賞授賞式の案内を頂きました。本年も水辺の優れた作品も選ばれております。

- 2019 年度 授賞対象作品の詳細

<http://design-prize.sakura.ne.jp/award>

- 選考委員による総評

http://design-prize.sakura.ne.jp/archives/result_comment

- ◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3588.html>



【海外からの提供情報】

■「RRC (英国河川再生センター) 最新会報 2019 年 11 月号」紹介

RRC (英国河川再生センター) の最新会報 (2019 年 11 月号) が RRC 事務局より届きました。

本号では、来年 4 月に開催される RRC 年次講演会の参加申込開始案内、「都市にトラウトを呼び戻そう」プロジェクトの都市河川ツールキット、英国内外で開催される河川再生関連行事案内等が掲載されています。

- ◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3591.html>

- ◆RRC 会報のバックナンバーはこちらから

<https://www.therrc.co.uk/bulletins>



JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

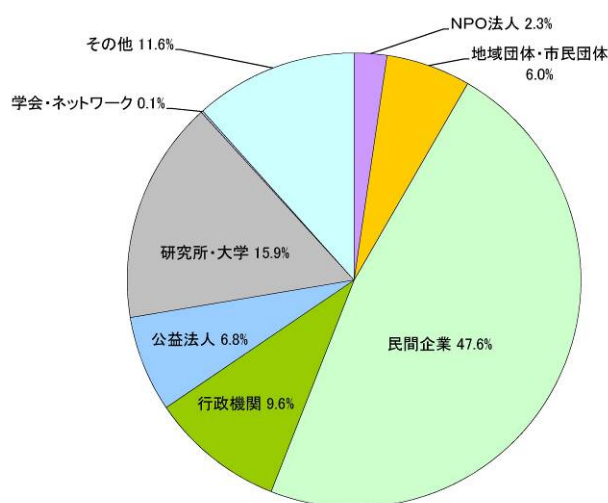
会員登録をされた方々へ様々な「会員特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2019年11月30日時点の個人会員の所属構成

（個人会員数：801名、団体会員数：60団体）

※11月の新規入会数：個人会員0、団体会員0

JRRN 会員特典一覧表（団体会員・個人会員）

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 NMF 茅場町ビル 7 階 (公財) リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3865 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>